

鹽竈十番

発行所 〒985-1810 塩竈市一森山一番一号
 志波彦神社 社務所
 電話 〇二二-三六七-一六一(代)
 FAX 〇二二-三六五-五五三〇
<http://www.shiogamajinja.jp/>



みなと祭 御座船「鳳凰丸」



六月に入り吉日の土日などは、五件六件と結婚式が続くようになった。鹽竈様へ進む新郎新婦は、奉仕員のさしかける朱塗りの大傘の蔭となるも、花嫁の輝きは隠しようもない。続く親族の姿も又晴れやかだ。参拝者も自らの晴れの日を思い返し、又は憧れのその日を想い描きながら拍手で両家を祝っている。初宮詣で幼子を抱いた家族、夫や両親とともに安産祈願に来ていた妊婦の方など、居合わせた人々皆が笑顔となる境内の様子が戻ってきていた。すべては地域の安全と各自の健康あってこそものもの。コロナ禍にあつて感染不安の中の二年半余を経て、人々の健康を感謝する気持ちや家族の健やかなることを願う祈りは一層切なるものとなっている。更に言えば、ウクライナ国民の悲しみを想い、国安かれと祈る言葉も耳に届く。

ぐんちゃん和我名今朝より言ひ初めて
 そのぐんちゃんの愛らしさかな

我が子の成長を詠んだ母の歌である。しかし、その日から二十一年後、国を守らんとする我が子を母は見送ることとなる。

こ守唄添ひ寝の昔なつかしく
 今宵限りと並び寝まほし

自分の名前を初めて口にした幼子の愛らしさを幾度も幾度も思い返しただろう母の心を思うと涙が出る。家族親族が皆健やかであるように、日本の平和が守られますようにと願ひ誓う。こうした祈りが日々積み重ねられ、穏やかで笑顔に満ちた人々が集う神前であり続けてもらいたい。

鹽竈神社例祭 七月十日

来る七月十日(日)、鹽竈神社例祭を齋行いたします。

古くは陸奥国司が神事でない、江戸時代は仙台北藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。

当日は午前十時より齋行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮各御本殿内に奉安されている御神幣を所役三名が奉戴し楼門前まで進み、まず南面して左右の順に振



御出幣式

り奉り、さらに北面して同様の所作を行います。これは国家の安泰と国民の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭禰宜家のみが相伝する秘事でした。

また奉祝行事として、当日午後二時より馬場において、コロナ禍により中止されていきました流鏝馬神事を三年振りに齋行いたします。

別宮・左宮・右宮と三頭の馬を立てて、各三番の騎射が行われます。



流鏝馬神事

藻塩焼神事

宮城県無形民俗文化財

七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社・御釜神社では、御祭神・塩土老翁神ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が齋行されます。

「藻刈神事」七月四日(月)

七ヶ浜花刈浜沖に神事船を出し、ホンダワラと呼ばれる海藻を採取する神事です。

「水替神事」七月五日(火)

松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、古い神釜の水を海に返して入れ替える神事です。午前十時に御釜神社において奉告祭、午後二時に出船し神事を齋行します。

「藻塩焼神事」七月六日(水)

海水を煮詰めて塩をつくる神事です。古代の製塩方法の一端を伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

神事で調製された塩は、御釜神社例祭、十日の鹽竈神社例祭で御神前に御供えされるほか、御釜神社例祭参列者にお頒けします。



塩竈みなと祭

七月十八日 海の日

七月十八日(月・海の日)

みなと祭が三年振りに齋行されます。

志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され松島湾を舞台に海上を渡御します。

曲木神社例祭

八月一日

八月一日(木)市内新浜町籬島に鎮座する末社・曲木神社の例祭が齋行されます。

籬島は古くより名高い歌枕の名所として多くの和歌に詠まれてきました。

毎月一日の月次祭、例祭前日の前夜祭、例祭日に渡ることができません。

わが背子を都に遣りて塩竈のまがきの島のまつぞ恋しき

〜古今和歌集〜

花まつり齋行

四月二十四日、花まつりが齋行され、御神輿が三年振りに市内を巡行されました。各御旅所では氏子の皆様に温かく迎えられ、市内は賑わいました。



氏子崇敬会

春季大祭齋行

五月八日、氏子崇敬会春季大祭が齋行されました。会長以下専任理事が参列し、祭典後、任期満了により新役員に委嘱状が交付され、また永年継続会員表彰が行われました。

令和四年度継続表彰者

(敬称略)

◇四十年

(東部)

貞山通

貞山通

港三四

中ノ島

中の島

貞山通

(南部)

東玉川町内会

(北部)

藤倉中央

振興会

藤倉親交会

◇二十年

(西部)

玉川二

(南部)

願成寺

◇十年

(南部)

南町一

小柴 勇雄

山下 靖雄

菊地 裕子

小島 邦雄

高橋 輝兆

山岸 輝男

株マルハラ

飛田 昇

株高浜

相澤 徳雄

佐藤 徳雄

鈴木 信弘

伊具郡

北海道

石巻市

石巻市

黒川郡

仙台市

黒川郡

仙台市

仙台市

岩手県

福島県

岩手県

仙台市

仙台市

遠田郡

石巻市

富谷市

仙台市

仙台市

三月

富谷市

高橋裕太郎

江本 美里

結婚
おめでとう
ごいいます

横山 千春

加藤 晃平

佐藤 咲希

菅野 真範

前本奈々子

長瀬 達哉

菅野 尚美

渡邊 裕也

三浦友梨香

前川 健哉

小田島留歩

渡邊 英樹

高橋 萌

藤原 裕也

境 由貴

豊田 滋

塩竈市

千葉県

岩手県

石巻市

山形県

岩手県

岩手県

岩手県

宮城郡

宮城郡

名取市

登米市

岩手県

宮城郡

角田市

東松島市

遠田郡

塩竈市

名取市

仙台市

山形県

群馬県

愛知県

塩竈市

千葉県

岩手県

岩手県

石巻市

山形県

岩手県

岩手県

岩手県

船山 美希

鈴木 章太

渡邊 仁菜

蛭名 裕次

菅原 絵美

相澤 喜光

小野 嘉子

片倉 正幸

玉ノ井明子

佐藤 強

佐々木真実

鈴木 将明

今野 志紀

酒井 直紀

上野 貴子

菅原 健太

齊田 優香

榎本 康平

高橋美由紀

日野 俊太

岩崎 里紗

伊藤 知人

遠田郡

仙台市

栗原市

埼玉県

山形県

仙台市

仙台市

五月

青森県

岩手県

岩手県

角田市

仙台市

福島県

大崎市

東京都

宮城郡

福島県

仙台市

山形県

塩竈市

塩竈市

佐々木良太

森 茉莉子

阿部 サヤ

金 宇潮

曾根和歌子

外山 晶得

泉 華子

梅津 俊介

大立目 葉

菅原 翔平

田中江利子

佐藤 大地

滝沢 頼義

佐伯ちひろ

小野寺有紀

半澤 健太

藁谷なつみ

壺井 俊一

笹山 来夢

山田 冬野

沢崎 友香

井上 貴史

黒川 友香

黒川 友香

栗原市

富谷市

遠田郡

大崎市

仙台市

仙台市

多賀城市

宮城郡

石巻市

岩手県

岩手県

仙台市

茨城県

茨城県

仙台市

福島県

仙台市

福島県

仙台市

塩竈市

仙台市

黒川郡

福島県

栗原市

富谷市

阿部 未来

篠澤 健人

早坂 貴弘

佐々木奈央

阿部 瑞生

阿部 怜弥

鈴木 志穂

千葉 靖

藤原 理沙

金 俊介

白土 文

久野 靖仁

高比座美幸

千葉 洋平

渡辺 翼

佐藤 茜

荒 智子

深沼 秀瑛

千葉 晴佳

工藤 景信

(敬称略)

国家安泰 五穀豊穰 家内安全 祭事暦

(七月から九月まで)

毎月

- 一日 朔日 祭
- 一日 曲木神社月次祭
- 六日 御釜神社月次祭
- 十日 鹽竈神社月次祭
- 二十九日 志波彦神社月次祭

七月

- 四日 藻刈神事
- 五日 水替神事
- 六日 藻塩焼神事
- 〃 御釜神社例祭
- 七日 牛石藤鞭社例祭
- 十日 鹽竈神社例祭
- 十八日 流鏝馬神事
- みなと祭

八月

- 一日 曲木神社例祭

九月

- 二十九日 志波彦神社遷座記念祭 並に氏子崇敬会秋季大祭

安産祈願 海上安全 大漁満足

御田植祭齋行

五月七日、御神田において御田植祭が斎行されました。巫女と養成所生徒により御田植がおこなわれました。

これから四ヶ月、農耕と殖産の守護神・志波彦大神が見守る中、秋の収穫を待ちます。



参拝記録

三月

十二日 奈良県・薬師寺執事長 大谷徹英氏 他九名

五月

二十九日 東京都・布多天神社 野澤康次郎宮司 他一名

文芸欄

諸肌にされてかくやく土辣韭
薫風や魁夷の白馬走り出す
葉桜や園児らの声弾け来る
毛虫ケムシ花どろぼうの報いなり
撫で牛に塩竈桜散りにけり
朝採りの束解きにけり初蕨
累代の色の褪せたる鯉幟
がき大将二列に並ぶ葱坊主
漁港にも銀座の香り鱈東風
夕映えの水のおしゃべり葱坊主

- 大野 みよ子
- 今田 須美子
- 大友 セツノ
- 上田 由美子
- 鈴木 ゆう子
- 佐藤 悦子
- 菅原 和子
- 斎藤 豊子
- 今野 紀美子
- 及川 源作

夏越大祓式

六月三十日、祓所において、夏越大祓式が斎行され、参列者は半年間の穢れを祓うとともに、コロナ禍の収束を願ひ茅の輪をくぐりました。



銅板奉納者芳名

- 三月 大野府 川上 豊弘
- 四月 神奈川県 増元 光徳
- 五月 愛知県 ほか一〇四名
- 金井 幸子
- ほか九十六名 (敬称略)

巫女神楽舞温習

五月十二・十三・二十五・二十七日の四日間にわたり、巫女の神楽舞の温習が行われました。

藤波祥子先生(巨理郡・八重垣神社宮司)の御指導のもと、当社独自の一森の舞・海人の舞や、浦安の舞、悠久の舞の稽古に、新任の四名を含めた巫女たちは熱心に取組みました。



赤巻

みなと祭が開催されます。三年振りの海上絵巻を是非ご覧下さい。(慶)